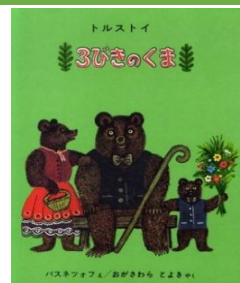


貸し出し絵本 あらすじ集 こりす組2歳児

	<p>今年3つのみほちゃんが、ひとりではじめてのお留守番をすることになり…。幼い心の不安と成長を温かい母親の目で描きます。</p>		<p>貧しいこぶたの3兄弟がそれぞれの家を作ることに。そこへオオカミがやってきて…果たして3兄弟のオオカミ退治はうまくいくのでしょうか？</p>		<p>こんは、あきのおばあちゃんが作ったきつねのぬいぐるみ。あきはこんを直してもらうため、こんと一緒におばあちゃんの家に向かいます。無事にあきのおばあちゃんの家に行くことができるのか？こんとあきの冒険の物語です。</p>		<p>小さなヤギ、中ぐらいのヤギ、大きなヤギ、みんな名前は「がらがらどん」。橋をわたっている途中に谷に住むトロール(おに)にでくわしてしまいます。3匹のヤギは無事に橋をわたることができるのでしょうか？</p>		<p>みいちゃんは、ママに頼まれて牛乳を買いに！お店にはだれもいません…小さな女の子の心の動きを鮮やかに描いた絵本です。</p>
	<p>ある日、キツネは「友だち屋さん」を始めることを思いつきました。1時間100円で友だちになってあげるのです。森で一番のさびしんぼうのキツネは友だちを上手に作れるのでしょうか？</p>		<p>ぐるんばは、ひとりぼっちの大きなぞうです。ビスケット屋さん、靴屋さん、ピアノ工場、自動車工場…。ただ作るものが大きすぎて失敗ばかり…そんな時ぐるんばが作ったものとは？</p>		<p>切なくてあたたかい、小さな「わすれもの」の気持ち。ミナちゃんは、パパとママと大好きなひつじのぬいぐるみと一緒に公園に遊びに行き、公園にひつじをわすれてしまいました。あたりが暗くなり、その夜は雨も降ってきて…。</p>		<p>おなじみの日本昔話が、日本画を想起させる水彩で味わい深く描かれました。加えてこの作品の特徴は、独特の擬態語と言葉のリズムです。聴覚を刺激する音と民謡調の抑揚の生きた日本語で語られ生き生きとよみがえります。このリズムは大人にとっても魅力的。昔話のよさがぎゅっとつまった一冊です。</p>		<p>お料理すること食べることが何より好きな野ねずみのぐりとぐらは、森で大きな卵を見つけました。さて、ぐりとぐらは、大きな卵で何を作ることにしたのでしょうか？</p>
	<p>大きくて立派な動きをするみんなは、いつも小さな消防自動車しぶたを「ちびっこ」あつかいしていました。でも、道がせまい山の中で火事がおこりました。このままでは山火事になってしまいます。そんなとき、出動を命じられたのはなんとしぶたでした。</p>		<p>お母さんの留守に妹のあやちゃんと家の前で遊んでいたあさえ。ところが顔をあげるとあやちゃんがいなくなっている…。あさえは妹をさがしにどきどきしながら公園に向かっていきます。小さな子どもの心の動きを文と絵が一体となって緊迫感をもって描きだします。</p>		<p>カニがおにぎりを持って歩いていると、する賢いサルが、捨てた柿の種と交換しようと提案し…サルとカニは仲直りできるのか？</p>		<p>よしみは、おにいちゃんに借りた念願の絵の具でおえかきを始めますがうまく描けません。絵の具をくわえたへびを追いかけて森へ行くと……。優しさあふれるファンタジー絵本。</p>		<p>山姥の娘まゆは、ある日鬼に会います。鬼はまゆを煮て食べようとお湯を沸かしはじめます。まゆはそうとは知らず、手伝います。その怪力に驚いた鬼も、鍋のお湯が沸くころには、もうすぐまゆを食べられるとにんまり。ところが…？</p>
	<p>ながい鼻とかうちわとか、てんぐちゃんの持っているものを何でも欲しがるとだるまちゃんの物語を、親しみやすい絵で語ってゆく、ユーモアあふれる絵本。</p>		<p>だるまちゃんシリーズ第三弾は雪の中でうさぎちゃんと一緒に遊ぶおはなし。何だか懐かしいレトロで温かい雰囲気ストーリーは他シリーズと同様、その上にところどころに雪の遊び方や手袋人形の作り方などがたくさん載っていて加古里子ワールドがたっぷり堪能できます。雪が降った日にこれは楽しい絵本です。</p>		<p>だんまりこおろぎはじめてないたのは?? 色鮮やかな貼り絵で描く音の出る絵本。見る人の感性を豊かに育みます。</p>		<p>赤ちゃんが生まれて、お母さんは忙しいので、なっちゃんはいろんなことを自分ひとりでやってみます。眠くなった時だけは、どうしてもお母さんに甘えたくります。お姉さんになったことで感じる切なさ、それを乗り越えることで成長していく子どもの姿を、母親の深い愛情とともに描いています。</p>		<p>ある ゆきのよるに、げんどうせんせいは五つごのしゅっさんにたちあいました。ふゆが あけた あるひ、せんせいのまえに あらわれたのは…。</p>
	<p>雪とともに生きる、雪国の人々のものがたり。ページをめくるたび、あたたかな気持ちにつつまれる雪国のお話です。</p>		<p>雪が降る寒い日、ばばあちゃんは寒い寒いと震える動物たちに、寒い日の特別なあつまりかたを教えてください。雪の日や寒い日もなんだか遊びたくなってくる絵本です。</p>		<p>段々と増える手袋の住人。まだ入るかな？ もう無理かな？ 次は誰が来るかな？ そのような想像を掻き立て、ハラハラドキドキの展開が楽しめます。</p>		<p>正月の餅を買うために、笠を持って町に売りに出かけました。戻ってくる途中、野原に立っているお地藏さまに雪が積もっているのを見て、持っていた笠を全部かぶせてあげました。翌朝、どこからか櫓引きの声が…。</p>		<p>貧乏なおじいさんの家のやせねずみは、太ったねずみと相撲をとって負けてばかり。それを見て、かわいそうに思ったおじいさんは？人間とねずみの気持ちの交流が、とてもあたたかくて、ほのほのとした昔話です。</p>
	<p>ストーブがもえている家の中で、おばあちゃんはおまんじゅう作り。みんなでほおぼる、できたてのおまんじゅうの味は格別。ボードゲームをチーム対抗でたのしめるのも、大家族ならではの、どんなに寒い日も、14匹が寄り添えば、こころもからだも、ぽっかぽか。</p>		<p>山へ花きりに行った小僧が、鬼ばさにつかまりそうになるたびに、便所の神様がくれた三枚のお札を次々に投げて、命びろいするお話。スリリングな中にもユーモアあふれる昔話絵本です。</p>		<p>欲張り男のところに、よく働くが飯を食わない美しい女がやってきて女房になりました。女の正体が鬼婆だったことを知った男は、鬼婆にとらえられ……。赤羽末吉の絵によるスリリングな昔話の絵本。</p>		<p>三人兄弟の末っ子ティッチ。体のサイズも、持ち物も、一番小さかったり、一番幼かったりするけれど、ティッチにはティッチの役割があるので。それは最終幕。誇りげなティッチのかわいい笑顔が見ものです。胸を大きく張ってエッヘン！ 小さな子供を応援したい、そんな一冊です。</p>		<p>指のいろいろなごきを表現して、それを子どもの生活のなかで、一番身近で親しいともだちのように描いた楽しい絵本です。</p>



迷子になった女の子は、小さな家を見つけます。3つのイスに、3つのお椀、3つのベット…。女の子が入り込んだのは誰のおうち？



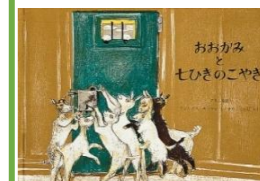
宝集めに夢中だった、黒マントに黒帽子の3人組の大盗賊。ひょんなことから孤児たちを集め、すてきなお城をプレゼントしました。



橋をかける大工と目玉が欲しい鬼の取り引き！何度橋をかけてもたちまち流されてしまう川に、橋をかけるよう村人に依頼された大工が、川岸で思案していると、鬼が現れて…。日本の昔話の絵本です。



ハイキングに出かけた3匹のねずみは、途中で道にまよって、ある家にとめてもらうことになりました。ところがその家は……！ちょっぴりこわくて、とても楽しい物語絵本です。



「おおかみを家にいれないよう注意しなさい。」おおかあさんやきはこやぎたちにそういって、森に食べものを探しにでけます。そこへ、おおかみがいろいろと知恵をしぼってやってきて…。

